

スタッフのためのフリー ペーパーマガジン

まめ

Vol.7 2017.10

私はプライベートでフットサル(ミニコートでのサッカー)をしていまして、ここでは様々な人に出会います。イラストレーターや、建築業者の人、同じ福祉業界の人、はたまた外国の方など多種多様な人が同じコートでボールを追いかけています。

そんなフットサルをしていたある日、スクールカウンセラー(以下SC)をされている方と出会いました。SCとして家庭環境や障害により学校等に通う事に支援が必要な子どもや保護者と関わっておられる方でした。

いまアークスペクトラムでは、「社会資源の改善・開発を実践し入所を選ばない地域生活をつくるプロジェクト(通称つくるプロジェクト)」を進めています。地域で当たり前のように暮らせる社会基盤づくりを目的に、障害を持つ人に関わる人々(当事者・障害を持つ子の親・障害福祉関係事業所・大学教授など)が集い、情報共有の会議を行っています。

このプロジェクトが進行していたこともあり、社会資源のひとつ、「教育」の現場を知る事ができるのでと声を掛けさせてもらいました。幸いにも良いお返事をいただき、今日14日に行いました全体研修の講師に来ていただくことが実現しました。

学校という組織の仕組みの説明から始まり、生徒が学校に通うための合理的配慮の実例、そして学校と他資源との関わり課題が残ることなどをお話いただきました。合理的配慮の実例から、少しずつではありますが学校現場で障害のことが理解され変わって行っていることを感じました。

今回、フットサルという別の世界を通じSCの方と出会うことができました。そして異なる分野でも志を同じくする人がいることに私は嬉しくなりました。人の縁は不思議なものです。みなさんもこの秋はスポーツを楽しんでみませんか。新たな出会いがあるかもしれません。

文：編集〇

ふりかえればイシュー

今回のふりかえればイシューは「サポートグループ」のお話。

サポートグループというのは同じ悩みや背景を持つひとたち同士でお互いに支え合い助け合う関係を作るために集まる「場」のことをいいます。そこでは時間を分けあって話の聴き合いをします。聞き手と話し手、役割を交代しながら話すひとの言葉に耳を傾けるのです。

集まったメンバー同士は対等な関係であるため否定・批判やアドバイスをしたり、指導をしたりする場所ではありません。ただただ「聴く」「話す」ということを続けます。この独特のやり方はアメリカで生まれた再評価カウンセリングというものにそのルーツがあります。

普段ひとりで現場にいき、仕事をして帰るといった働き方の性質上、その中で感じたことや悩んだりしたことをなかなかみんなと共有できなかったり、ひとりで何とかしようと抱え込んでしまうこともあるかもしれません。

ひとりで仕事をしたり、様々な問題に向き合うことはとても力のいることです。時にしんどくなったり、うまくいかないことで自分を否定してしまう・・・なんてことにもつながってしまうでしょう。

人と人のつながりを実感できて、聞いてくれる仲間の存在がいれば、様々なことを一緒に考えあうことができますし、困った時は助けあう事も出来ます。アクスペではそのためにサポートグループをやっています。

じっくりと相手の顔を見ながら話を聴きますので、そのひとのことをよく知ることにもつながります。同じ時間を共有したあとはつながりが深まった感覚があって、私はいつも満たされた気持ちになります。

自立生活センターの事業のひとつであるピアカウンセリングの講座では、その対象者は障害をもつ当事者ですが、アクスペで行っているサポートグループでは、当事者は介助をするひとと障害をもつひとも含めてみんなである、という考えのもと、他の団体からも様々な立場のひとたちが集まります。

もちろん登録スタッフ、正職員という線引きもありません。すべてのスタッフにとってウェルカムな場所です。

今月のサポートグループは10月27日(金)の14時からアクスペの事務所にて開催します。

文：編集Y

サイドバイサイド

はたらくひとのよこがお。

今回のインタビューはコーディネーターの N さんです！

編集0：長年介助の仕事をしてきて体調管理などで苦労されたことはありますか？

野間野：ぎっくり腰になったことです。予感もなく突然でした。1週間はお休みしました。

編集0：痛そうですね…原因はなんだったんですか？

野間野：疲労が溜まってたのだと思います。

編集0：腰痛対策はどんなことをされていますか？

野間野：介助時も普段の動作にもボディメカニクスを取り入れて過ごすようになりました。あと介助の合間にストレッチをするようにしてます。

編集0：腰痛や体調はもちろん、他にも介助現場での関係性など、介助の悩みを抱えることがあると思います。そんな時はどのようにされてきましたか？

野間野：1人で悩むのではなく、自分の気持ちを話すことを保障された時間をもつ事でしょうか。スタッフやGMに話を聞いてもらいながら、悩みと向き合いどう行動すべきかを考えてきました。

編集0：自分のことを話せる場所・仕組みとしてはサポートグループがありますよね。

野間野：サポートグループでは話をする場が保障されていて、参加すればするほど自分のことが整理されていくのを感じます。仕事のことでも、家庭のことでも、その時に思っていることを言葉に出すことで自分の立ち位置を確認することができるようになりますね。

編集0：保障された場所を活かすことで仕事や生活にも良い影響が？

野間野：そうですね。思いを整理していくと、自分が介助現場でどのようにコミュニケーションをとるべきか、自分に必要なサポートをどう作って行くかが見えて来ましたね。



N・F さん
男性 コーディネーター

まいのーと

私たちからのお知らせ

□月にいちどのごえんの日。それはそれは一人ひとりがよりあるがままの自分をあらわせるとっておきの時間。いつもの場所が少し姿を変え、みなさんと食事とお話を楽しむ憩いの場に。

ご縁の会

する日：11月24日（金よう）

じかん：18時～20時すぎ

ところ：アークスペクトラム事務所

おかね：1,000 縁～



□介助スタッフ大募集

NPO 法人えがくでは夜勤には入れる介助スタッフを急募しています。

アルバイトの方であれば兼業可。学生さんの場合、学業との両立を相談しながらシフト調整します。

○働く時間

日勤は9時から19時。夜勤は19時から翌朝9時まで。※その他の勤務形態有開始時間終了時間の調整はその都度相談して決めています。

働きたい！という方がいらっしゃいましたら下記の連絡先まで

075-874-7356（人事担当）